



ありがとう 元気まつり

ささえあう熊本 一歩前へ



開会の挨拶をするくまもと理事長の牧幸子さんと
元気くん。地元のテレビ局も取材に来ていました

2016年4月の熊本地震発生から半年が経った10月23日、グリーンコープ生協くまもと主催の「ありがとう 元気まつり」が熊本市内で開催されました。まつりのテーマは、「ささえあう熊本 一歩前へ」。たくさんの方から支援いただき、熊本が元気を取り戻してきたことへの感謝と、みんなで力を合わせてさらに力強く復興にむけてすすんでいきたいという願いがこめられています。訪れた約2000人の参加者が元気になるまつりとなりました。



職員・ワーカーズも産直びん牛乳やジュースの試飲などをすすめ、おいしいグリーンコープを伝えました



ファイバーリサイクル市も大人気。お気に入りの衣類が見つかった?

前日からの雨にもかかわらず、10時のスタートと同時にたくさんの方が会場に詰めかけました。会場となったフードパル熊本のイベント広場には、56のグリーンコープのメーカー・生産者、お店ワーカーズが出店して、試食や販売が行われました。また、子育て支援ワーカーズによるキッズコーナーや、無料で参加できる「マイ箸づくり」のブースもたくさん家族連れで賑わいました。日本全国から届いた絵本

を積んだ「えほんバス」も到着し、子どもたちは好きな絵本を1冊ずつ選び、もらうことができました。屋内ではファイバーリサイクル市(リサイクル衣類の販売)と、被災したメーカーや生産者、組合員、熊本地震グリーンコープ災害支援センターからの支援活動報告会も開催されました。

「今回のまつりは仲間づくりを前面に出したものだ」というより、組合員や地域の方々がまつりに来て楽しんで、元気になってもらおうという思いがありました。主催する組合員に負担がからないように、短期間で企画を考え、すすめてきました」とくまもと理事長の牧幸子さん。「当日出会った組合員から、『私たちのためのまつりだから雨が降っても楽しもうと思ってきました』と言っていたのでとても嬉しかったです」と笑顔で語りました。

(2面に関連記事)
※NPO法人地球の楽好による支援



産直牛の焼き肉実演販売。食欲をそそる匂いが会場いっぱいに広がりました



木曽ひのきを使った「マイ箸づくり」。自分の手に合った箸づくりに大人も子どもも楽しめたチャレンジ

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2016 12月

■発行：グリーンコープ共同体育理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
博多大博通ビルディング3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

Contents

熊本地震支援報告	2
ふくおか発 障がい福祉サービス事業所 多機能つむぐ	3
2016年度 地域運動交流集会	4・5
子どもの居場所づくり フードバンク事業	6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協ふくおか 栢木 真貴さん	7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

チェック!

原発のない社会をめざした「グリーンコープでんき」をみんなで利用しようね。「グリーンコープでんき」のホームページも見えてね!



熊本地震支援報告

被災地の移り変わる状況に合わせて
一人ひとりに寄り添った支援を続けていきます

「あおぞらひろばinみふね〜バスに乗ってまで貝をとりに行こう!」。30人の親子が夢中になって貝獲りをしました



子どもたちに元気になってもらう取り組み「えほんバス」

グリーンコープは、震災によって
職を失った人を支援するため
有期雇用職員として12人を雇用しています常に人の笑顔に囲まれた
仕事で充実しています

有期雇用職員 古谷 航太さん



7月から、古谷さんは支援センターで働いています。熊本市内で会社員をしていましたが、地震による会社の業務縮小に伴い失業、社宅だったアパートを出て、市内の実家(一部損壊)に妻と身を寄せています。新聞で有期雇用職員の募集を知り、応募しました。

移動販売車での買い物の支援や、炊き出し支援、物資の運搬などの業務をしています。「子どもが生まれる予定なので、仕事があり本当に助かりました。生協での仕事は初めてですが、地域と一体になった爽やかな仕事だと思います。できればずっと働きたいと思っています」と話す古谷さん。2017年からくまもとの共同購入ワーカーになることが決まり、ますます意欲的に業務に励んでいます。

熊本地震災害救援金 使途報告
2016年10月31日現在

熊本地震災害救援金にご協力ありがとうございます。熊本地震の支援活動などへの救援金の合計とその使途についてご報告します。救援金(残金)は今後も支援活動に活かしていきます。

カンパ金合計	122,882,981
支援費用項目	
支援物資	63,332,409
支援人件費	11,073,653
支援交通費	4,396,351
倉庫代	1,643,528
イベント費用	1,826,514
その他	2,068,960
支出合計	84,341,415
残 金	38,541,566

熊本地震では、被災した地域の組合員・ワーカー・職員が現場の状況を共有し、相談しながらグリーンコープの支援に繋がってきました。

被災直後からこれまでの支援の様子と、今後の支援のあり方について、くまもとの理事長や副理事長の話をまじえ、お伝えします。

物的支援から心のケアに

震災直後の緊急物資支援に始まり、「熊本地震グリーンコープ災害支援センター」(以下、支援センター)を立ち上げて被災者の要望に耳を傾けながら、車中泊・テント泊の方々への炊き出しなど、グリーンコープは熊本地震の被災地支援を続けてきました。グリーンコープが支援活動において常に大事にしてきたのは、被災した方々がその時々に必要なものを望んでいるのか、一人ひとりに寄り添って考えることです。



くまもと理事長 牧 幸子さん

難な地域には移動販売車を送らせています。

地震から月日が経過する中、心のケアにも力を入れています。映画の上映会やファイバーライク市など、リラクゼーションとして楽しんでもらえる企画や、子どもたちが外で思いきり楽しめる企画も実施してきました。

被災地の組合員の報告

益城町や阿蘇地方を含む県東地域の地域理事長(副理事長)である竹内智子さんと、御船町を含む県西地域の地域理



くまもと副理事長 竹内 智子さん



くまもと副理事長 高濱 千夏さん

理事長(副理事長)の高濱千夏さんは、地震直後の様子をまつりの中で報告しました。二人とも被災者でありながら、地域の組合員に困ったことはないかとメールを送り、寄せられた情報を支援センターに繋げました。

竹内さんは、「メールを返してもらった組合員さんからは、『行政ではなかなか手が回らないところに対応してくれて、とても助かった』と喜んでいただけました。9月に阿蘇で映画上映会を開催し、200人を超える参加がありました。被災者はまだまだ普段の生活に戻れてはいませんが、一歩ずつ前へ向かってい

ます」と話しました。高濱さんは母親の立場から、不安を感じている子どもへの精神面でのフォローが必要だと感じました。「危険な箇所が多く、子どもたちが自由に遊べる場所がありませんでした。地元の認可外子ども園の協力で『あおぞらひろばinみふね』を開催し、野いちご摘みや貝獲りなどをしました」と、子どもたちが自然の中でのびのびと過ごせる機会をつくってきたことを報告しました。「本震後数日は何も手に付かない状態でしたが、グリーンコープの支援に関わることで、自分を取り戻し前を向くことができました」と被災した当時を振り返りました。

牧さんは、「二人から発信され実施したこれらの支援は、グリーンコープ全体、避難所から仮設住宅やみなし仮設への転居がすすんでいます。仮設住宅などへ移住された方には、せっけん類や米などの生活必需品を集めた「生活応援セット」を届けています。仮設住宅によつては、様々な地域の人が入居しているため、これから住民同士の関係をつくっていく必要がある所もあります。牧

さんは、「これから支援を中心にやっていきたい」と言います。仮設住宅でバーベキュー大会やファイバーライク市などを催し、入居者同士がコミュニケーションを図れる場づくりを始めています。

「物資をお届けした一軒一軒、30分ほどかけてお話を聞いています。困っていることを聞きながら支援に繋ぐのと、悩みを話すことで気持ちの楽

な気持ちになってもらえれば、これからもこの活動に力を入れて、元気を届けていきたいと思っています。」

グリーンコープは、一人ひとりに寄り添った心の支援も続けていきます。



仮設住宅でバーベキュー大会などを開催。入居された方々のほ

